

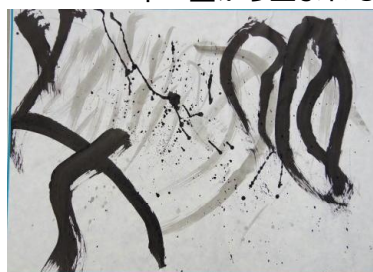
YN小 Y先生のあたりまえ

その① 「 試しの時間の十分な確保 」

初めての用具や画材、行ったことのない技法等を扱う場合、それらの扱いに慣れていないことから、児童が萎縮しながら表現しているように感じることがあります。したがって、自らの思いを具現化するためには、用具の慣れや技能の習得が必要であると考え、普段から事前の「試しの時間」を十分に確保するようにしています。

実際に、用具や画材、技法に慣れてくると、各々が膨らませたイメージを思い切って表現する様子が見られるようになります。6年「墨から生まれる世界」では、試しの時間を多めに設定することで、用具や画材、技法を理解し、もっている感覚や勢いを生かした作品が多く見られました。

6年「墨から生まれる世界」で自らの思いやイメージを生かした作品



「水」

普段は、大胆な色や筆使いをする児童です。今回は繊細な筆使いをしました。線の位置や描き方を考えながら、慎重に製作を行いました。



「マグニチュード8」

普段は、何を描くかとても悩む児童です。今回はのびのびと活動しました。線の位置や線の勢いを意識しながら製作を行いました。

その② 「 個に対応できるような画材や用具の準備 」

題材に合わせて、発達段階に応じた画材や用具の扱いを全体に指導することは当たり前のことです。しかし、児童がもつイメージをもっと追究させたいときに、個別に画材や技法等を助言するようにしています。普段から、制作に生かせそうな画材や用具を準備し、必要な時に紹介できるようにしておくことで、個々の表現力の伸長を促すことができると考えています。

5年「あったらいい町どんな町」での三者三様の画材の選択



<絵の具のみ>



<絵の具、水彩ペン、パステル>



<絵の具、水彩ペン、色鉛筆>

制作活動中や鑑賞で作品を見合ったり話し合ったりすることにより、各々が「これはわたしの表現にも使えそう」と気付き、表現の幅が広がるようになります。